

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和 5 年 7 月 31 日に令和 5 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和 5 年 8 月～12 月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元にした本県海域の予報をお知らせします。

■ 海況

黒潮：A 型基調で推移し、主に伊豆諸島海域の西側を北上する。
 （説明）2017 年 8 月に大蛇行になり、6 年が経過しましたが、大蛇行は継続する見通しです。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
 伊豆諸島海域は、概ね「高め」～「極めて高め」で推移する。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度
 高め：平年値+1.5℃程度
 極めて高め：平年値+2.0℃程度

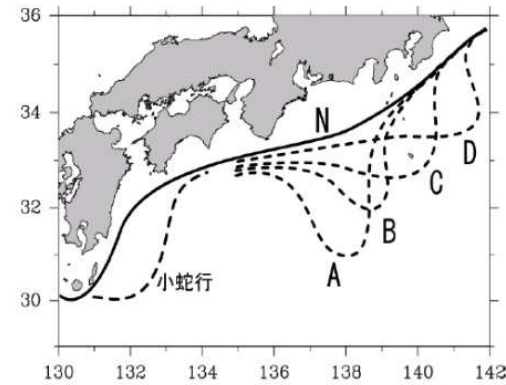


図 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ）

来遊量：不漁であった前年並みの低水準で推移する。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は、2000 年代以降増加していますが、神奈川県沿岸での漁獲量は引続き低水準で推移しています。2023 年 1～6 月の伊豆諸島海域には、産卵のための南下が少なかったとみられており、それらも 4 月下旬には北上を開始した形跡があります。一方のゴマサバは、低レベルで推移する資源量に呼応するように、1～6 月の伊豆諸島海域でも、相模湾沿岸の定置網でも漁獲量は少なくなっています。

これらのことから、東京湾～相模湾に 8 月以降来遊するマサバ・ゴマサバが大きく増加する要素は見当たらず、このような厳しい予測となりました。

1～5 月の伊豆諸島周辺で「江の島丸」が行った調査から、魚体サイズはマサバ：尾叉長 33～37cm（体重 390～620g）、ゴマサバ：33、34 cm（500g 前後）が主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：低調である近年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010 年以降増加していますが、神奈川県沿岸の漁獲量は低く推移しています。

本県における 2023 年 4～6 月の主要定置網漁獲量は前年の 4%、平年（過去 5 年平均）の 9% でした。

2023 年 8～12 月は、近年の傾向からヒラゴ～小羽サイズの 0 歳魚が漁獲の主体となるでしょう。今年の春シラス漁では、マシラス漁獲量が前年および平年を大きく上回りました。しかしながら、マシラス漁獲量と下半期 0 歳魚漁獲量との関係が近年は弱いことから、今漁期の漁獲量は低調である近年並と考えられます。ただし、春生まれの豊富なマイワシ資源が相模湾に留まれば、漁獲量が上向き可能性もあります。



■ カタクチイワシ

来遊量：低調である近年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004 年以降減少しており、特に沖合域における減少が顕著になっています。魚体サイズは体長 12cm 以上の大型成魚が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2023 年 8～12 月は、近年の傾向から体長 7～9cm の未成魚が漁獲の主体となるでしょう。黒潮大蛇行が継続している 2018 年以降、主要定置網の 8～12 月漁獲量は数トンのレベルに留まっています（秋季に一時的に解消した 2020 年を除く）。海況の項目で解説したとおり、黒潮大蛇行は今後も継続すると予測されることから、今漁期の漁獲量も低調である近年並と考えられます。



■ マアジ

来遊量：前年を上回る。

（説明）東シナ海を発生起源とするマアジ太平洋系群の資源量は近年低位・減少傾向です。

2023 年 1 月～6 月のマアジ総漁獲量は前年並みでしたが、0 歳魚（銘柄ジンド）は約 25 トン（西湘定置網合計）と、前年の約 25 倍の漁獲があり、上半期のジンド漁獲量としては 15 年ぶりの豊漁でした。これより、2023 年 8 月～12 月のマアジ漁獲量は前年を上回ると考えられます。

